

# 令和7年度 全国学力・学習状況調査 境港市の結果について

令和7年(2025年)9月

境港市教育委員会

令和7年(2025年)4月14日(月)～17日(木)に実施した全国学力・学習状況調査の結果を分析し、全国・県の結果と合わせまして本市の状況をお知らせします。

## I 教科調査・質問調査

### (1) 教科調査状況について

小学校 国語	区分	平均正答率(%)			
		境港市	鳥取県 (公立)	全国 (公立)	
	全体	63.0	65.0	66.8	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	73.0	76.1	76.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項	59	60.6	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	75.1	78	81.2
	思考力 判断力 表現力等	A 話すこと・聞くこと	61.2	65.3	66.3
		B 書くこと	64.9	67.8	69.5
		C 読むこと	55.1	56.3	57.5

小学校 算数	区分	平均正答率(%)		
		境港市	鳥取県 (公立)	全国 (公立)
	全体	52.0	55.0	58.0
学習指導要領の内容	A 数と計算	56.8	59.1	62.3
	B 図形	51.4	53.7	56.2
	C 測定	45.4	52.6	54.8
	C 変化と関係	50.2	54.0	57.5
	D データの	56.2	59.9	62.6

小学校 理科	区分	平均正答率(%)			
		境港市	鳥取県 (公立)	全国 (公立)	
	全体	54.0	56.0	57.1	
学習指導要領の内容	A 区分	「エネルギー」を柱とする領域	46.5	44.4	46.7
		「粒子」を柱とする領域	46.3	50	51.4
	B 区分	「生命」を柱とする領域	50.6	51.2	52
		「地球」を柱とする領域	60.9	65.3	66.7

○「文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかをみる問題」 (全国比+0.4%)

▲「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる問題」 (全国比-8.0%)

○「異分母の分数の加法の計算をすることができるかをみる問題」(全国比+4.1%)

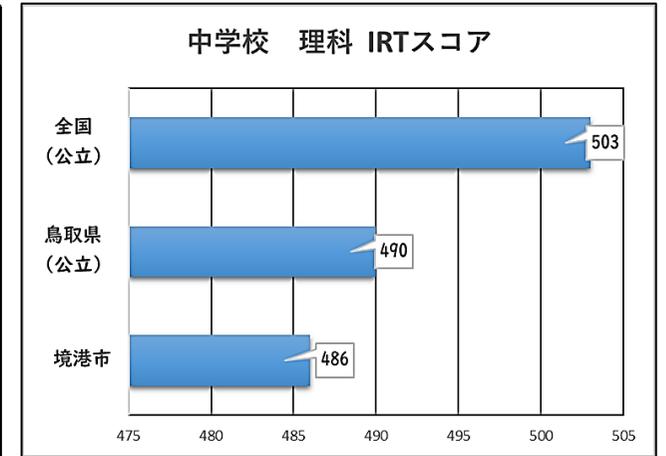
▲「解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかをみる問題」(全国比-9.6%)

○「電池のつなぎ方について、知識が身についているかをみる問題」 (全国比+5.1%)

▲「発芽について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかをみる問題」 (全国比-9.9%)

中学校 国語		区分	平均正答率 (%)		
			境港市	鳥取県 (公立)	全国 (公立)
		全体	51.0	52.0	54.3
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	47.3	46.7	48.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	思考力判断力表現力等	A 話すこと・聞くこと	48.4	49.3	53.2
		B 書くこと	49.0	50.4	52.8
		C 読むこと	58.3	60.3	62.3

中学校 数学		区分	平均正答率 (%)		
			境港市	鳥取県 (公立)	全国 (公立)
		全体	45.0	44.0	48.3
学習指導要領の内容	A 数と式		37.1	37.2	43.5
	B 図形		43.6	43.2	46.5
	C 関数		45.7	44.8	48.2
	D データの活用		57.7	55.6	58.6



○「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる問題」 (全国比+4.6%)

▲「自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる問題」 (全国比-9.1%)

○「必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる問題」 (全国比+4.3%)

▲「素数の意味を理解しているかどうかをみる問題」 (全国比-12.7%)

○「電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題」 (全国比+6.3%)

▲「スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる問題」 (全国比-10.5%)

## (2) 分析

小学校においては、解答を文章等で書く問題について、3教科全てで「書く問題で解答しなかったり、書くことを途中であきらめたりしたものがあつた」と回答した児童の割合が全国平均よりも高い状況がありました。

中学校においては、質問調査で「授業の内容がよく分かる」と回答した生徒の割合が、3教科全てで全国平均を下回りました。(国語全国比-14%、数学全国比-7.0%、理科全国比-3.8%)。自分の考えを整理し、構成や表現を工夫しながら相手にわかりやすく伝えるために必要な思考力・表現力を問う問題の正答率が全国平均に比べて低い状況にあります。

## IRTとは？

国際的な学力調査 (PISA、TIMSS など) や英語資格・検定試験 (TOEIC・TOEFL など) で採用されているテスト理論です。IRT スコアは各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表します。スコアは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果公表に向けた提供資料等について  
(R7.7.10通知)



(2) 児童生徒質問調査について

※上段…小学校 下段…中学校

項目	内容	本市(%)
学校生活	学校に行くのは楽しい	82.0
		83.0
	友人関係に満足している	91.9
		88.9
自尊感情 自己肯定感	自分には、よいところがある	88.9
		84.9
	人の役に立つ人間になりたい	96.1
		95.6
	人が困っているときは進んで助けている	93.4
		86.5
	将来の夢や目標を持っていますか。	77.8
		65.2
授業	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している	77.8
		77.5
	これまでの授業で課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる	77.1
		74.7
	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができている	82.0
	77.9	

[小学校]

- 「ICT 機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができる」に対する肯定的回答が全国平均に比べて高く(全国比+3.7%)、授業の中での ICT 活用が進んでいます。
- 「自分にはよいところがある」という意識が全国平均に比べて高く(全国比+2%)、自分自身を肯定的にとらえ、前向きに生活している児童が多い結果となっています。

[中学校]

- 「朝食を毎日食べている」(全国比+3.3%)、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」(全国比+4.3%)生徒の割合が全国と比べて高くなっています。学校と家庭が連携して、生活リズムの改善に努めている成果です。
- ▲家庭学習の時間では、休日に「1 時間以下または全くしない」と回答した割合が、全国と比べて11.5%高くなりました。

[小中共通]

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた児童生徒の割合が全国平均に比べて高い結果となりました。(全国比 小+0.1% 中+1.4%)
- ▲「これまで受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」について、課題が見られます。(全国比 小-7.7% 中-9.7%)

2 児童・生徒のみなさんへ

周りの友達の気持ちや状況を考えて行動しようとしている児童生徒の割合が高い結果となりました。引き続き、お互いの違いや良さを認め合い、助け合いながら学校生活を送りましょう。

学習面では、疑問や課題が見つかった時、その問題解決に向けて自分から取り組む児童生徒の割合が小中ともに8割以下となりました。まずは、自分で調べる(本、インターネットなど)こと、自分から聞く(友達、家族、先生)ことなど、できることから始めてみましょう。

授業以外の時間では、中学生の学習に取り組む時間が短い結果となっています。授業の復習や予習だけでなく、疑問に思ったことを自分で調べたり、好きな教科についてより深く掘り下げたりするなど、自分で課題を見つけて自学に取り組んでみましょう。自分の気持ちや考えを表現する力や考察する力もつき、自分の得意なことをより伸ばすことにもつながります。

